展示会場内は春の香りでいっぱいに

あきた白神トピックス

All High quality「白神山うど」

山うど部会、二ツ井営農センター

山うど部会（桜田和浩部会長）は、収穫最盛期を迎えた「白神山うど」の出来映えを競う共進会を開催すると、19名の生産者から43点の自慢の逸品が出展されました。

県地域振興局農業振興普及課と、丸果秋田県青果㈱の担当職員が秀逸揃いの出品物に困惑させられながら厳正に審査しました。

審査の結果、伸びのそろい具合や、曲がりなく綺麗な肌の色が高く評価された、畑山悦雄さんの出展した「紫目の白」が、最優秀賞に輝きました。

ＪＡ斉藤（伸）主査は「今期は太物が多く高品質な山ウドが各生産者から出荷されている。市場からも評価を得ており、生産者には最後まで気を抜かず、品質に注意し出荷し続けて頂きたい。」と期待を込めて話してくれました。

最優秀賞を除く結果は次の通り。

▽優秀賞＝藤田清樹、池端伸吾　▽奨励賞＝工藤アキ

最優秀賞「紫目の白」

それぞれの栽培技術を惜しみなく伝授

「白神山うど」の規格や出荷形態を今一度確認し、１本でも多くの規格統一された高品質な山ウドを出荷するため、ＪＡ販売担当職員や生産者ら約20人が集まり、２月５日に品質査定会を開催しました。

当日出荷した全生産者の出荷物から規格毎に無作為に抜き取り、陳列された30点を、参加者らは①軟白長②全長③肌の色④葉の開き具合などを確認しました。

桜田部会長は「今日陳列されたモノをそれぞれ見極め、部会員同志「何故そうなるのか」「どのようにしたら改善できるのか」を遠慮なく意見交換し、更なる品質向上につなげよう！」と呼びかけました。

部会員が切磋琢磨し品質向上目指す

白神山うどを購入する北海道民

春の香り　風に乗ってどこまでも

知名度向上と消費拡大など部会員の期待を託された若手部会員４名とＪＡ職員は、北海道札幌市の量販店２店舗で試食即売会を２月15～16日の２日間展開しました。

店頭では、北の大地に一足早い春の香り味わえる逸品を振舞うと、「歯ごたえも香りも抜群！」と買物かごに次々と入れ込まれ終日大好評に終わりました。が、帰りの飛行機が強風のため欠航となるハプニング。同行したＪＡ斉藤（伸）主査は「今期の山ウドは太物で品質も抜群。この強風はきっと追い風で、この風に乗って全国に「白神山うど」の名を轟かせたい」と、疲労を微塵も感じさせず逆転の発想を語ってくれました。